

平成29年度  
教養教育科目F群(地域学) 報告書  
「備後に学ぶ地域の課題」実施報告  
「松永に学ぶ産業と文化」実施報告

鶴崎 健一

(共同利用センター)



# 「備後に学ぶ地域の課題」実施報告

共同利用センター 鶴崎 健一

本学では、地域に貢献できる人材を輩出するために、共通教育科目の教養教育科目群として「F群（地域学）」を設置している。平成27年度から「備後に学ぶ地域の課題」という科目を設置した。設置から3年目の実施内容について報告する。

## 平成29年度の実施概要

平成29年度も、前年に引き続き、福山市環境経済局環境保全課に協力いただき、芦田川をテーマにした授業を展開した（参考資料1、p.186）。講師は、福山市環境経済局環境保全課 卜部憲登課長にお願いし、鶴崎と企画・実施した。

今年度も、昨年度同様、福山市が企画するふくやま環境大学の芦田川見学ツアーに参加した（10月7日）。それまでの2回の講義で、目的や授業展開の方法の説明、卜部憲登氏による芦田川の現状の説明、2チームに分かれ、各グループで課題の検討を行った。

10月7日は、8時30分に福山駅を出発し、神辺西コミュニティセンターに向かった。ここでは、環境保全課の職員から、「芦田川の特徴と現在の水質について」、および、芦田川支流の堂々川で自然保護活動を行っている堂々川ホテル同好会事務局長の土肥徳之氏から「堂々川ホテル同好会の活動について」の講演を聞いた（写真1）。その後、11時頃から堂々川周辺に移動し、土肥徳之氏から説明いただきながら、砂留の整備や周辺での保護の様子を確認した（写真2）。昼食後、芦田川見る視る館に行き、河川の浄化施設の見学、簡易水質検査の実習を行った。実習の後には、ふくやま環境大学の方も交えて、4つのグループに分かれ芦田川の環境改善などについてグループ討論を行った（写真3）。それぞれのグループから報告があったが、受講した学生も発表を行った。15時30分に福山駅に戻り、解散した。

その後の講義やグループワークは、7号館2階プロジェクトラウンジで行った。事前に決めた2つのグループ（「あっしーチーム」と「めがねチーム」）に分かれて企画を検討してもらい、企画案を作成した（写真4、5）。「あっしーチーム」は「メディアを使った情報発信で、芦田川についてのQ&A新聞、街頭インタビュー、YouTubeでの情報発信を行うという企画」、「めがねチーム」は「小学校を訪問し、芦田川を模した移動水族館の企画」であった。そして、最終回には、それぞれのグループの企画案について発表を行った（写真6、7）。

講義終了後には、Cerezoを通じて、レポート課題、授業アンケートを行った。



写真1 堂々川ホテル同好会の活動についての説明



写真2 堂々川砂留の見学



写真3 芦田川見る視る館でのパケット体験

## 平成29年度の成果・課題について 受講者について

平成29年度の受講生は、残念ながら昨年度より減り、6名であった。多少少ないがグループワークの指導はしやすい規模であり、また、昨年のように途中で放棄する学生はおらず、活発な意見交換が行われた。「学生からの感想、意見」(参考資料3、p.186)にも、授業について肯定的な意見が見られた。

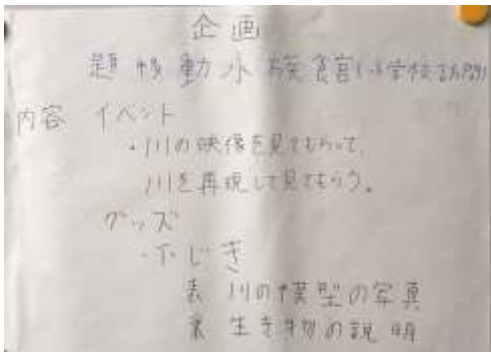


写真5 企画書 (めがねチーム)

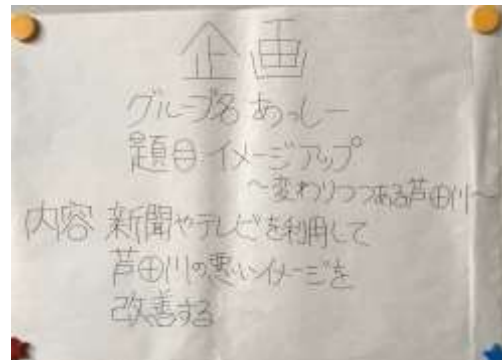


写真4 企画書 (あっしーチーム)



写真6 あっしーチーム (新聞企画原案)

## 成果物の作成・発表について

成果物については、昨年同様、企画案を作るところまでを課題としたが、昨年に比べて、完成度の高いものを作成することができた。昨年度は、教員の要求と、学生の達成したいレベルに若干の差が見られたが、今回はほぼこちらの期待したレベルであったように思う。

特に、「めがねチーム」の企画内容は、工夫次第によっては福山市との協働で実現できるかもと思わせる企画案であり、「あっしーチーム」の企画案ももう少し踏み込んだ内容に仕上げることができれば、芦田川のイメージアップに繋げることが可能ではないかと思わせるものであった。

さらに、今回は、FM ふくやまのパーソナリティーの高橋秀年氏の協力で、授業内容についてラジオ番組の収録も行った(写真8)。残念ながら、ラジオ放送への出演に手を挙げたのは、3名(授業の都合上、実際に収録に参加したのは2名)で全員の参加とはならなかったが、授業を通じて学生が率直に感じたこと、学んだことを聞く機会にもなり、今後の同科目の発展にも大きく寄与できる取り組みであった



写真7 めがねチーム (芦田川移動水族館の企画)

と考えている。また、高橋氏からは、来年度以降の協力にも快諾いただいております、同科目が本学学生の社会貢献の一旦を担うことができそうである。

教養科目の性質上、研究活動としての取り組みには限度があると思われるが、教育活動としては継続的に実施する意味があると考えます。

### 学生の授業評価

授業評価アンケートによる本講義の満足度は、概ね良好であった（満足 3 名・ほぼ満足 3 名）。

授業の適切性については、「比較的、難しかった」が 1 名いたが、「適切であった」が 5 名であり、概ね学生にとって適切と思える内容であったと考えられる。

また、学生の感想（参考資料 3、p.186）には、昨年までと同様、芦田川に関する知識が習得できただけでなく、グループワークでの積極性、主体性がいかに重要かを理解できたとの記載があり、この点については、本講義の到達目標が達成できたと思う。

一方で、授業評価アンケートの結果を見ると、関連学習の時間が 1 回あたり 30 分未満の学生が 4 名いた。この授業は、ディスカッションを行うための準備学習とディスカッションの結果を受けての事後学習を期待し、そのように指導したのだが、必ずしも教員の思惑通りに進んでいなかったことになり、残念な結果であった。それでも、昨年と比べると、Cerezo のプロジェクト機能（グループワークができる）をしっかりと活用していたので、多少なりとも指導の効果があつたと考えたい。

平成 29 年度は、福山市環境経済局環境保全課課長のト部憲登氏の献身的なご協力によって、無事に授業を展開することができた。また、福山市環境経済局環境保全課には、3 年続けて協力いただき、非常に感謝している。平成 30 年度も続けて、「芦田川のイメージアップ」を題材として実施する予定である。より充実した授業内容を目指し、学生の地域貢献の意識を高める一助となるようにしたい。



写真 8 ラジオ収録の様子

## (参考資料1) シラバスの概要

講義名	備後に学ぶ地域の課題		
開講期・曜日・時限	後期・水曜・5時限 他	単位数	1単位
授業のねらい、概要	備後地域の様々な課題を題材に、学外調査やグループワークなどを行なうことで地域社会への貢献のあり方を考えていきます。本年度は、福山市経済環境局環境部環境保全課の協力のもとに、福山市を流れる芦田川について考えます。福山市では芦田川の水質について、報道等でワーストワンというイメージ先行で取り上げられているため、芦田川本来の良さが伝わっていないという問題を抱えています。そのイメージを払拭するための施策（アイデア）を考えます。		
授業（学習）の到達目標	地域を育み、地域に貢献する精神を身に付けることを目指します。グループワークや学外活動を通じて、コミュニケーション能力を身につけることを目指します。		

## (参考資料2) 各回の授業内容

授業回	授業内容
第1回 9月27日	ガイダンス（本講義の目的・進め方などの説明） 福山市を流れる芦田川の現状について
第2回 10月4日	芦田川のイメージアップのための施策を考える1 課題の説明・グループ分け・自己紹介・課題の整理・行事参加の分担
第3～5回 10月7日	ふくやま環境大学（芦田川の実態を知る） 堂々川ホテル同好会の活動見学・芦田川見る視る館での水質調査体験
第6回 10月11日	芦田川のイメージアップのための施策を考える2：成果物の構想 ふくやま環境大学での知識の整理・課題の洗い出し・課題解決方法の検討
第7回 10月18日	芦田川のイメージアップのための施策を考える3：成果物の作成 施策の具体的な検討・成果物の作成
第8回 10月25日	芦田川のイメージアップのための施策を考える4：成果発表と討論 グループ発表・ふりかえり・レポート課題説明

## (参考資料3) 学生の感想、意見

話し合っただけで企画するということができなかったのが楽しかったです。
学外へ行き授業を行うのが面白かったです。
私は、将来地元で就職したいと考えているので、役に立つかなと思い、この授業をとりました。内容は想像とは違いましたが、芦田川という身近なものを題材としていたので、とても面白かったです。グループ活動も全く話したことがない初対面の方とでしたが、ちゃんと話すことができたので良かったです。正直、あまりに知らない人だらけだったので、人見知りの私にはちょっと辛く、やめようかと思いましたが、やめなくてよかったなと思えるような授業でした。実際に考えた企画も本当に小学校に行ったら楽しいだろうなと思いました。将来この授業で学んだことを生かしていきたいです。ありがとうございました。
まさかこんな身近にとっても汚いと言われている川があるとは思いませんでした。福山に住んでいる友達に聞いたらみんな知っていました。でもそれはやはり根拠のないものでした。芦田川について調べた一人として、小さな力ですが自分の周りから誤解を解いていこうと思います。ありがとうございました。
芦田川のことに知ることができ、またグループで協力して企画を考えることができたのでとてもよい経験となった。



# 「松永に学ぶ産業と文化」実施報告

共同利用センター 鶴崎 健一

本学では、地域に貢献できる人材を輩出するために、共通教育科目の教養教育科目群として「F 群（地域学）」を設置している。平成 28 年度から「備後に学ぶ地域の課題」という科目を設置した。残念ながら、開講初年時には、受講生がおらず、不開講となってしまったが、2 年目の平成 29 年度には開講することができたので、実施内容について報告する。

## 平成 29 年度の実施概要

本科目は、福山市経済環境局文化観光振興部 文化振興課に協力いただき、松永はきもの資料館あしあとスクエアを利用した科目で、学生自身で学習課題を考え、調査研究を行うことで地域社会のあり方を考える科目である（参考資料 1、p.189）。

受講生については、受講登録は 7 名であったが、受講説明会（参考資料 2、p.190）に参加したのは 4 名で、実際の受講も 4 名であった。受講生が多い場合は、大学教育センターの教員で分担する予定であったが、少人数であったので鶴崎だけで担当することにした。受講生の 4 名と個別の面談曜日時間を決め、2 週間に 1 回を目安に面談を行うことにした。

受講生 4 名は、4 月 22 日（土）にはきもの資料館を見学した。10 時にはきもの資料館に集合し、見学の前に、はきもの資料館の小畑和正事務長にはきもの資料館の成り立ちや展示物の概要について紹介していただいた。その後、小畑氏の案内で、館内の見学を行った（写真 1）。

はきもの資料館見学の翌週から、ほぼ 3 回の面談で、各学生の学習テーマを絞っていった。

6 月から 7 月にかけては、テーマの絞り込みや見直しをしながら、学生に関連資料の調査をしてもらい、内容のチェックのための面談をほぼ 2 週間に 1 度のペースで行った。

前期中にはほぼ、調査内容を確定し、8 月から 9 月の夏休み期間中は学生と Cerezo で 2 週間に 1 度のペースで連絡を取りながら、学習を進めることにした。

9 月の後期の初回には、夏休み期間中の調査も含めた中間報告をしてもらった。その内容をもとに、今後の方針について検討し、はきもの資料館での発表会（12 月 16 日）までに完成する目標を立てた。その後、11 月中旬までは、前期同様にはほぼ 2 週間に 1 度、面談をしながら内容を深めていった。

11 月中旬以降は、発表用のパワーポイントのスライドの作成、発表の練習などのため、面談のペースを週に 1 回に変更し、学生の進展具合によってはさらに頻度を高めて、発表の準備を行った。また、発表会については、公開で行うこととし、大学教育センターの日暮助手の協力で広報用のポスターやチラシ（参考資料 3、p.190）を作成し、学内への配布、および、はきもの資料館の小畑氏の協力で学外にも配布した。

発表会当日は、9 時 30 分にはきもの資料館に集合し、10 時から参考資料 3 の順で学生による発表（写真 2）、そして、それに対する小畑氏による講評（写真 3）が行われ、ほぼ 1 時間で終了した。

発表会での質疑応答の結果を受け、1 月 30 日を期限に書く受講生で最終報告のレポートを作成した。



写真 1 はきもの資料館の見学

### 平成 29 年度の成果・発表について

はきもの資料館には、履物以外にも、全国の玩具や松永地域の伝統産業に関する機械などが展示されていたため、学生が最初に考えたテーマは、2名は履物に関するもの、1名は農業機械に関するもの、1名は玩具に関するものであった。残念ながら、1名は放棄となってしまったが、後の3名の最終的なテーマと発表概要を以下に示す。

#### 安全靴の特徴とその種類 宮 良樹 (心理学科3年)

危険を伴う作業では安全靴が利用されている。では安全靴とはどのような構造をしているのか、その種類にはどのようなものがあるのか、さらに、どのような考えで作られてきているのか、法的整備の歴史も含めて調べ、考えたことを発表する。

#### 使用者は技術進化のきっかけ—農業機械とサッカースパイクとの共通点— 立原優太 (人間文化学科1年)

農業機械とサッカースパイクは、一見全く関係のないものに見える。しかし、それらを作る技術者の求めるところは同じではないのか、という視点から、農業機械の進化の歴史、サッカースパイクの進化の歴史、および、それぞれを作るメーカーの理念を調べ、考えたことを発表する。

#### 現代人に合う靴 蜜石武留 (人間文化学科1年)

日常生活の中で、靴は足を保護するだけではなく、ファッションの一つとして使われていて、様々な種類がある。一方、使い方によっては怪我や障害の原因にもなる。では、どんな靴が現代人にとって良いのか、という視点から調べ、考えたことを発表する。

発表会には、鶴崎と小畑氏のほか、大学教育センターの日暮助手、文化振興課2名、松永学区の方2名、本学学生2名の7名が参加してくださった。少人数ではあったものの、学生の発表について、質問やコメントも積極的にいただき、活発な議論ができたと考えている。

また、参加いただいた方に次のようなアンケート調査を行なった。「今回の発表は、あなたの教養を深める、または、知的好奇心を刺激する内容でしたか。」には、「非常にそう思う。」、「どちらかというと思う。」に多く回答をいただいた。また、「来年度以降も、本授業の発表会を行う予定です。次回以降も聴講したいと思いますか。」という質問にも、ほぼ半分の方が「ぜひ聴講したいと思います。」と回答くださった。おそらく、応援や今後の発展を期待しての意味を込めてのものと思うので、次年度にはもう少し受講生を増やし、聴衆も増やす努力をしたい。

#### 今後の課題

この科目は、学生自身で主体的に学習を進めていくことが重要であるため、特に8月から9月の夏休み期間中に調査研究を進めてもらう予定であった。そのため、学生には2週間に1回程度、進展具合について Cerezo で連絡するよう伝えていたのだが、4名のうちの2名は比較的定期的に報告があったのだが、全般的に滞り気味であった。学生の自主性を



写真2 はきもの資料館での研究発表



写真3 はきもの資料館事務長小畑氏による講評



尊重することを考え、あまり強く要求はしなかったのであるが、学生の学習状況の把握はやはり重要なので、進展具合を測る方法を検討することが、来年度以降の課題の一つである。

今回の授業を受講した学生は、当初4名であったが、最後まで受講を継続したのは、3名であった。途中で放棄した学生は、前期のうちから体調不良を理由に、面談日に欠席気味であったが、改めて面談を設定すると、前回与えられた課題については、調査を進めていた。夏休み期間中の報告は滞っていたが、後期に入り、初回の面談には出席した。しかしながら、それ以降、連絡が取れなくなってしまう。発表会が控えていることもあり、メールで面談への出席を促し、さらには、担任の先生を通じて受講の継続を促したが、残念ながら発表会の直前になっても連絡を取ることができず、放棄ということになった。受講生が進めていた調査内容について、私は、面白い視点で伝統的な文化の継承について考えた内容で、あと少し工夫することで、今回の他の発表にも劣らない内容であると評価していた。受講生には、当然ながら、そのこともメールに含めて連絡を取ろうとしたのだが、一切連絡が取れず、非常に残念であった。連絡が取れなかったために、受講を放棄した理由が不明で、評価が難しいのだが、学生にとって受講継続が困難となるような負担がかかっていた、あるいは、学生にとって適切なテーマでなかったなどが考えられる。受講について初回に、発表会があること、受講について課題研究は学生自身で行うこと、定期的に担当教員がチェックを行うことを十分に説明しており、学生が納得した上で受講したはずである。説明を聞いた上で、受講を取りやめた学生もいるので、説明については適切に行われたと考えているが、来年度は、さらに丁寧な説明が必要かもしれない。

また、受講の途中で継続を取りやめたことから、次回以降、夏休み期間中も通じて学生の動向をこれまで以上に注視しながら進める必要があると感じている。

なお、この科目は、授業の形態上、ある程度、自学自習ができ、プレゼンテーションなどの訓練を受け、地域のことについて興味を持っている中上級学年の学生を本来は対象としている。今回、受講した学生は1年生が多かった（4名中3名）ので、受講生にとっては少し負担が大きかったのかもしれない。

今回は、受講生が少なかったこともあり、本学で行なっている授業評価アンケートに相当する内容で、学生に授業についての評価を聞いてはいないが、学生のレポートに記載された感想に、

『この授業は調べることが多く、またパワーポイントも作らなくてはならないと、やることが多く難しかったところもあるが、そのかいあって、人前できちんと自分の思い通りに発表できたときはとても気持ちがよかった。良き思い出になった。別の授業でも応用できるところは応用したいと思う。』

という記述があった。最後まで学習を継続することで、このような感想を持ち、さらに学習を進めたいと思う受講生が増えるように、学生個人々の状況を加味しながら、指導内容を検討していきたい。

平成29年度は、福山市経済環境局文化観光振興部文化振興課の協力とはきもの資料館あしあとスクエア事務長の小畑和正氏の献身的なご協力によって、無事に授業を展開することができた。平成30年度も続けて、実施する予定である。上記のような課題を改善しながら、より充実した授業内容を目指し、学生の地域貢献の意識を高める一助となるようにしたい。

#### (参考資料1) シラバスの概要

講義名	松永に学ぶ産業と文化		
開講期・曜日・時限	通年・集中講義扱い	単位数	2単位
授業のねらい、概要	松永の「はきもの資料館 足あとスクエア」には、世界中のはきものを始め、地域の伝統産業に関わるものや文化に関するものが展示されています。この資料館を見学することで、産業の栄枯盛衰、文化の継承など、様々な観点から地域について学ぶことができます。そこで、この資料館の見学を通じて、学習者自身の観点で地域の産業や文化について考えてもらいます。		
授業(学習)の到達目標	地域の産業や文化について自身で課題を考え、調査研究することで、地域社会のあり方を考えることができることを目指します。また、その成果をもとに、地域を育み、地域に貢献する精神を身に付けることを目指します。また、学修を通じて、コミュニケーション能力を身に付けることも目指します。		

## (参考資料2) 授業日程と実施内容

日程	内容	実施概要
4月10日 ～18日	受講説明会	期間中の昼休み時間中に、学修支援相談室にて、受講について（はきもの資料館見学会、日程など）の説明を行う
4月22日	はきもの資料館見学会	実施場所：はきもの資料館（説明者：はきもの資料館事務長） 実施時間：10時～12時（以降は、自由に観覧） 実施内容：はきもの資料館展示物の見学
4月10日 ～28日	担当教員の決定 面談日程の決定	受講人数で担当教員を決定（今回は4名の受講のため鶴崎のみ） 担当教員と面談日程（曜日時限）を決定
5月～6月	テーマの決定 調査研究の準備	担当教員と2～3回の面談を行い、相談の上、決定 資料集めの方法など、調査研究の方法について担当教員と検討
6月～9月	調査研究	テーマに沿って、はきもの資料館などの見学、資料の閲覧、現地調査などを行い、各自で学修を進める 6月～7月：定められた面談日程に従って、担当教員に定期的な報告を行い、調査について指導を受ける 8月～9月（夏休み期間中）：各自で調査研究を進める
9月下旬～ 10月初旬	中間報告 調査研究内容の再検討	この時点までの調査研究内容をまとめ、担当教員に中間報告する 担当教員と相談しながら、残りの期間で調査研究する内容についての目標を定める
10月中旬 ～11月中旬	調査研究	再検討の結果を受け、各自で学修を進める 定められた面談日程に従って、担当教員に定期的な報告を行い、調査内容について指導を受ける
11月中旬 ～12月中旬	スライドの作成	調査研究の結果から、プレゼンテーション用のパワーポイントスライドを作成する
12月16日	プレゼンテーション	はきもの資料館にて、パワーポイントによる発表を行う 一般にも公開し、意見を仰ぐ
12月下旬 ～1月末	レポートの作成	プレゼンテーション時の質疑を反映させて、必要なら追加の調査を行い、レポートを作成
1月30日 (締め切り)	レポートの提出	完成したレポートを担当教員に提出

## (参考資料3) はきもの博物館での発表のチラシ

## 「松永に学ぶ産業と文化」成果発表会

共通教育科目（教養科目F群 地域学）「松永に学ぶ産業と文化」の受講生による調査研究結果の発表を、松永はきもの資料館（あしあとスクエア）で行います。  
是非、聴講にお越しください。ご批評など、歓迎いたします。  
学生、教職員は入館無料です（入館の際に、学生証または教職員証を提示してください）。

場 所： 松永はきもの資料館（あしあとスクエア）  
日 時： 平成29年12月16日（土）10:00～11:30

タイムテーブル

10:00 開会あいさつ  
10:10 成果発表

テーマ（仮題）：順番、題名は変更されるかもしれません

- 竹とんぼの進化-ドローンとの共通点?ー 北吉純希（人間文化学科1年）
- 安全靴の種類と機能 宮良雄（心理学科3年）
- 技術の進歩は使用者にありー農業機械、サッカーシューズー 立原優太（人間文化学科1年）
- 現代人に合う靴とは 窪石武留（人間文化学科1年）

11:10 講評（はきもの資料館事務長：小畑緑）  
11:25 閉会あいさつ

